

警時報

行發日一廿
印刷所 警時報社
印刷所 警時報社
印刷所 警時報社
印刷所 警時報社
印刷所 警時報社
印刷所 警時報社
印刷所 警時報社
印刷所 警時報社
印刷所 警時報社
印刷所 警時報社

慰問の大任を果して

篠山校長元氣で歸る

平第一校長篠山藤氏は本縣教育界に於いては、旅中日本に生れた有難さの皇軍慰問使に選ばれ一行十人が痛切に感じられたので直ちに二名の副長格として去る九月二日神宮、明治神宮に参拝して十八日出發二十九日午後三時新國運の長久を祈願し同夜午後十時港出帆の月山丸で朝鮮清津に時歸郷した。篠山氏は歸郷の上陸、滿洲牡丹江、佳木斯の皇軍を慰問し松花江を越へて遼東江の移民村を視察、更に牡丹江、掖河に赴いたが時恰かも縣出身將兵はノモンハン線の戦地から歸還したばかりで慰問の實をあげることが出来た、更にハルビン、新京、奉天、北京、天津、大連、旅順を経て二十一日東京到着し旅順を経て二十一日東京到着し

あすから防空演習

各町毎に指導員配置

本市では第三次防空訓練の完結を期すため二十一日午後二時から市公會議堂に警備委員、各區長並に家庭防空指導員を招集各區毎に部長指導員四五名を配置する事に協議した

慰問袋

二千個發送

平愛國婦人會では前線の勇士にも劣らぬ銃後女性の涙ぐましい活躍を讃めて二十一日戦線將兵へ慰問袋二千個を發送する事になった

一、口腔外科
二、レントゲン科
中野齒科
平市町(電五〇九)
院長 中野 真次

小名濱町の墓地整理

小名濱町では市制施行の前提として町内に散在する墓地整理を計画し、現在の火葬場西側に一万坪の地を選び共同墓地を新設する事として敷地買収並に整地費として二万二千圓を計上起債認可申請中であつたが内務省を通り内務省が死去したので十回かゝる事になった

小名濱の門戸

泉驛を改築

小名濱港の實現に伴ひ小名濱地の希望に副ひ先般これが振興方の異常な發展に連れて常磐線改築方を陳情中であつたが、東泉驛降客や發送、到着貨物は鐵道局山本技師が水戸運輸事務所毎日に増加の一途を辿つてをり、東泉驛に於いては貨物運送の現在の驛では到底完全な輸送を遂げなす得ぬ程狹隘を告げて来たので地方民大喜びである、同驛で支部泉驛長は沿線関係村民の四月から九月までの貨物輸送を

篠山慰問使の手記

(九月二十八日新瀉にて) 午後三時八分新瀉通過新瀉に安着、車中好問常の遊藝者達の一行の大勢同乗一行は村長達の加入多、二三の顔見知り者あり見渡す處七十に近しいと思はるゝもの五六名あり年の悲哀一時に解消、すつかり若くは氣になりすまし極めて愉快に万代橋の宿舎に入り今一浴を終りたる處に候、連中の様子を見れば衛生的準備殆んど無頓着豫防注射の話を

四千三百八十四噸、到着二千九百九噸である
福島無盡金庫 生
湯本無盡の躍進
湯本町湯本信用無盡株式會社で湯本無盡會社を改稱したものは二十日株主總會を開き福島と見る可く本社は福島市に置く福島無盡株式會社を合併し、株が重役全部湯本無盡の重役が株式會社福島無盡金庫と改稱する任し實際の業務も従前通り湯本事を決定發表した、資本金三十町湯本社で行ふわけである

産組への課税に

絶対反対と決議

大藏大臣に打電
平市及び石城郡下各町村の産業阻害するばかりでなく、農村生組合では政府が税制改革計案を提出するものであると絶対的に産業組合課税案が含まれて反対を表明し青木大藏大臣宛に打電した

平商校落成式

來月五日盛大に舉行

平商業學校落成式は五日午前九時半同校講堂で舉行するが席上功勞者を表彰する、尚ほ平商友會では式に引續き落成祝賀式を舉行するが余興として茶話、狂言、仕舞等がある

祝賀狂言

平市白土會主催平商業學校新築落成祝賀狂言大會は五日午後五時、白土會の催し

山本教諭退職
警城中等校教諭山本三郎氏は第野村又三郎(大刀)小早川清一線で病を得歸還し療養中であつたが二十一日依願退職となつた

必勝を期して

警女軍猛練習

神宮大會近づくと
第十回明治神宮大會に出場する藤原教諭に引率され出發する警城高等女選手は連日必勝を期しになつたが選手左の如くである猛練習を續けてゐたが、愈々二庭球千葉、木村、技技内藤十九日午前五時十五分鈴木、佐野、大鹿、小泉

木炭商檢舉

草野氏槍玉にあがる

公道價格と無視して
平市では最近木炭値に暴落して公道價格一圓三十八錢を一圓七圓取引を行ふ不正商人があるの十三錢に同二品一圓二十八錢を採知し捜索を續けてゐたが二を一圓五十五錢の價格で東京市十二日赤井村大字高萩木炭商草野野川區木炭商大澤源四郎、千野米彌(六〇)を檢舉取調べた結果藤原橋市橋本力藏、東京市荒果左の犯罪事實が明瞭となつた川區今井信造、埼玉縣北葛飾郡の二十三日臨時措置法違反と藤原源平等に四萬七千六百八十八圓として平檢事務局に送つた、同人はを賣り公道價格より三割乃至四割高で四千三百三十一圓一錢を賣り公道價格より安値で利益をおさめたものである

適正價格...秋冬荷揃へ
常に商品豊富
御用命は.....
平市 三井吳服店へ

慰問號の辭

本紙は去る四月一日、八月一日の二回に亘り平市出身將士慰問特報號を發行し、長期建設下にますます發展途上を歩む平市の現勢と、聖戰二週年を迎へて行はれた第二次空襲演習に於ける銃後市民の鐵壁を誇る防衛隊を詳かに寫照して大陸の野に奮戦奮闘の大任に當らる、將兵諸君に贈つたところ、幸ひにして征旅の陣中に慰問の一端を果すことを得て、慰問機上に山積するの榮を添ふしたことは衷心感激に堪えぬ次第である。

警 城 時 報 社

聖戰下、自肅に終始

銃後縣政を背負つて立つ 縣會議員選舉無事終る

聖戰下に於ける縣會議員選舉は九月二十五日全縣下一齊に執行された、定員四十四名に候補者七十五名の多數に上り激戦を演じたが全縣下を通じて政友派の進出目録ましいものがあり同派十四名の戦前勢力から一躍二十一名對民政二十三名の均衡した勢力に接近した、今回の選挙は市制實施に伴ひ石城郡と平市の選挙區が分離された最初の選挙で郡市を通じて從來六名の定員が市部一名、郡部六名計七名と一名の増加を見て居り各候補者の地盤に大きい消長を來すに至つた爲、市部二名、郡部十名と候補者亂立し文字通り血みどろの激戦が隨所に展開された。

老練野崎氏を破り

關内正一氏當選

市部・嚴たり市民の總意

獨立選挙區と成つた平市部から一併と成つて關内氏に當つた爲は市會議長であり民政野崎派の兩派の勢力相伯仲し、言論戦で總帥である野崎滿藏氏起ち、一方は野崎派、梁山博代議士、若松防衛局長關内正一氏出馬、兩氏に對しては政治的生命を賭する關内氏の戦ひだけに縣下の激戦地として全縣民の視線を集め野崎氏は市會に於ける連沼、萩原兩派との提携をそのまゝ三派

平 市 (定員一名)
當選 一、七二三票 關内正一(政前)43
次点 一、七〇一票 野崎 滿藏(民前)59

郡部も政友大勝

政四民二の分野を再現

郡部では政友派は機先を制し部會に於て三乃至四名の公認を決定、縣の告示と同時に詮衡委員小野晋平、連沼龍輔兩現議員並に新人木村守江、赤津庄兵衛四氏を擁立して全獲を期し一方民政派は自薦候補多士濟々にし候補者の決定に行儀を生じしむるに當り、大井川氏の出馬も湯三十七票、棄権は僅か二百五十五票を隔ること二回

北部草野三郎(前)中部萩原義雄(元)兩氏決定のまゝ、菊田方部は坂本龜太郎(植田)矢吹莊司(湯本)青木信治郎(勿來)野田虎次郎(上野)と對立し勢力が殆んどものに成らず一部部會は押し切つて坂本龜太郎氏を公認に選んだ爲矢吹、青木比佐派の反感を買ひ萩原氏の立天目兩氏を始め反坂本派は結比佐派の反感を買ひ萩原氏の立東して野田虎次郎氏を擁立非公認で馬を進め、湯本町から對三の戦前分野が一躍五對二(比佐派公認で大井川正己氏起平市を含む)と政友派の大勝にち、前回一敗地に墜れた修正派歸した

石 城 郡 (定員六名)

當選 四、四六六票 木村守江(政新)40
當選 四、二〇二票 赤津庄兵衛(政新)45
當選 四、一六八票 連沼龍輔(政前)48
當選 三、九三五票 小野晋平(政前)55
當選 三、〇二二票 草野三郎(民前)70
當選 二、八二九票 坂本龜太郎(民新)58
次点 二、四六三票 萩原 義雄(民元)52
二、三二二票 野田虎次郎(民新)59
一、四〇二票 大井川 正己(民新)37
一、三二二票 齊 藤 晃(養新)38

内郷開票結果

選挙毎に注目目的となる内郷村の開票結果は左の通りでこれによつて連沼氏は當選確定し、萩原氏は一千二百票を集めたが遂に及ばず落選の悲運に逢つた

一、二七五票 連沼 龍輔
一、二七一票 木村 守江
一、二七六票 赤津庄兵衛
一、一七〇票 草野 三郎
一、一五五票 坂本龜太郎
一、九三三票 野田虎次郎
一、三〇〇票 齊藤 晃
一、八八八票 大井川正己

平市の棄権率

全國一の好成绩

今回の縣會議員選舉に當つては當局が聖戰下の選挙として候補者ならびに選挙民の自肅を要するに當り、假令も遠反、棄権等の面でも、豊間村最も悪く五分二分、豊間村最も悪く五分二分、川前四割四分、川前四割四分、反對に棄権率のよいは渡邊村の五分二厘、玉川の八分弱、植田の八分強などであつた、内郷、湯本、好間等の炭礦地帯は棄権率少なく、いづれも一割一分から一割六分程度の棄権で済んだのは前選の徹底を物語る嬉しい現象であつた

圓滿に役員決定

総親和反映の臨時縣會

興亞の縣政を議する光輝ある新は民政派、副議長政友派より選出、參事會員も各五名宛同数の十六日午後二時五十分開會、割當成り政友派は三期十二年振過般の改選で當選した四十四議りで廿一對廿三の均衡した勢力員編成と登場した、これより先に清きつた左記の如く役員選時局を反映せしむべく政民兩派を終了、天機奉何並に皇軍慰の聯絡協調調滿裡に具現し議長長問文を可決、會議一時間にして

縦横に敏腕を發揮

政友派を大勝に導いた 小野氏の名幹事長ぶり

政友派が郡市を通じて五二の議、自ら求めて第四位當選に大勝を博したことは徹底した甘んじたあたり名幹事長たる蕭選下にあつて人物本位に選んだ選挙民の自覺に原因してゐるものと思ふが、縣支部幹事長の要職にある小野晋平氏が民政黨の機先を制し郡部から四名擁立した機敏な策戦と持前の強引で押し切つたこと、政友大勝への因を爲してゐる、同氏は断然首位當選の勢力を有しながら脆弱を傳へられた自派の候補者に地盤を割

大勝利の辯

今回の選挙は非常時聖戰下に於ける選挙は非時常選挙だ、本行はれた意義深い選挙だ、本縣政友派が故に日進し躍進を遂げ、殆んど同数に接近した二名の差まで肉迫し得たのは大いに原因がある、從來に於ける民政派の多數は不自然な多數であつた、興亞の時局に直面し縣民が自覺、積極的な政友會の政策に共鳴したものである、即ち大陸政策が叫ばれてゐる今日、本縣ばかりでなく全縣的に政友派の増加を見るに至つたことは國民が自覺し、吾黨過去の功績を記憶の中から呼び起し、積極主義、大陸的精神の我黨議員に對し絕對支援された結果斯様に政友派が膨脹されたのだと思ふ幸ひにして縣民多數の支援に依つて縣政に躍進の地歩を占めた以上縣民の聲を良く聴いて縣政の上に反映せしめ、銃後に於ける圓滿な遂行を圖る覺悟である

縣會新役員

議長、小松茂藤(治民) 副議長、太田秋之助(政)

參事會員

加藤 宗平(民) 川田 正智(民) 大竹 作磨(民) 高野 與次郎(民) 志賀 起(民) 金子 與左(政) 星 重(政) 唐 橋 重(政) 赤津 庄兵衛(政) 大木 代吉(政) 都市計劃委員 根本 善藏(政) 佐藤 元治(民) 菊地 善吾(民)

天機奉何電文

御稟威の下、皇軍の勇奮力圖に依り國威全支に洽し、洵に恐懼感激の至りに堪へず、茲に福島縣會の決議に依り謹みて天機を伺ひ奉る 右御機を乞ふ 福島縣會議長 小松茂藤 宮内大臣松平恒雄殿

我等の新選良を語る
石城郡市三萬五千有権者の總意によつて選ばれた我等の新選良はどんな人物か、その抱負、政見は如何、以下七選良の横顔と政策の一端を紹介して見よう

次の代議士候補

名幹事長

小野晋平氏



政友會縣支部幹事長の重責を負ふ小野晋平氏は波瀾を極めた長...

現議員中の白眉

熱血正義漢

關内正一氏



政見

小野晋平氏

私は前回の縣會に當り、選挙の場を以て公私の道を明かにし、公認候補を以て選挙に参り、...

初代團長の榮譽を擔ひ、三萬五千市民の空を護り、生命財產確保のため全市民の信頼を一身に集め正義の信念に燃える熱血の士である

聖戰參加の勇士

變り種隨一

木村守江氏



最高峰の見事に初陣に鹿を射止退場、部會へ脱黨届を投げつけた木村守江氏は元代議士現大が今次改選に際して某派が當...

立看板御法度

今次事變の特性

木村守江氏

政見

木村守江氏

私は支那事變勃發するや、一昨昭和十二年九月召集せられた角部隊編成と共に上海に於ける激戦を初め、江南江北の戦線にあり、一年五ヶ月家庭を離れ、...

全市國旗掲揚

平市の肅選風景

今度の選挙は平市にとつては獨立選挙區となつて最初の縣選戦だけに市民の心構へも從來と全く異り、...

幾多の未解決な懸案を實踐することが生命であり、一切の政黨團體は政民、社大その他を問はず、...

私は世の爲人の爲めに働く事を天賦の尊い使命である、と確信し、従つて一生をこの使命に捧げることを念願としてゐる

一、獨善主義を排し輿論政治の徹底を期す
一、銃後奉公の万全を期す
一、複雑多岐に亘る指導方針の單一化を期す

一、縣下中等學校教科書の統一を期す
一、中等學校入學考査試験の改善を期す
一、官公吏子弟の轉入學制度の改善を期す

